

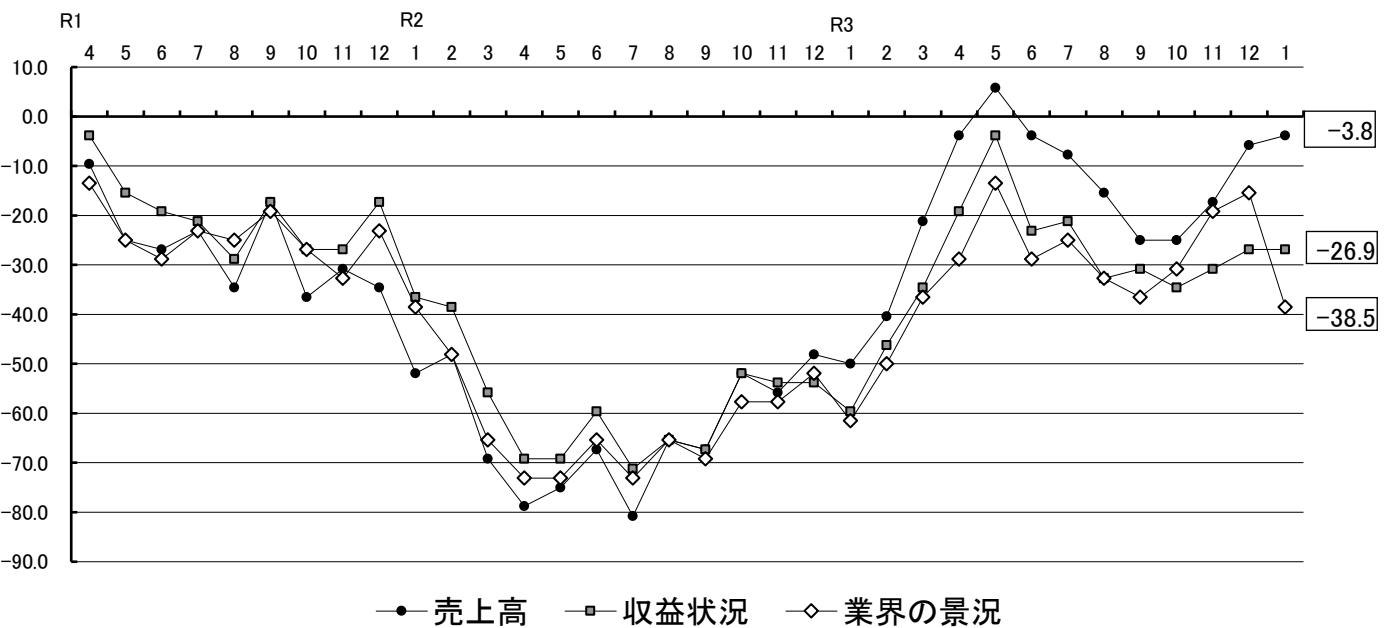
# 中小企業団体情報連絡員報告結果(令和4年1月分)

栃木県中小企業団体中央会

この報告結果は、栃木県中央会において設置している中小企業団体情報連絡員（中小企業組合（協同組合、商工組合等）の役職員52名に委嘱）による、所属組合の組合員企業の全体的な景況です。

- 主要3指標「業界の景況」だけが大幅に下降。「収益状況」は変化なし、「売上高」はわずかに上昇した。
- 依然として製造業で「食料品製造」、非製造業で「小売業」が特に厳しい状況。
- オミクロン株感染拡大が止まらず、業況等が急激に悪化したことから引き続き予断を許さない状況である。

県内主要3指標の推移(前年同月比DI値)



主要3項目	県内		全国	
	DI値	前月比	DI値	前月比
売上高	-3.8	+2.0	-14.8	-16.4
収益状況	-26.9	±0.0	-33.0	-13.4
業界の景況	-38.5	-23.1	-31.4	-14.8

### 売上高

当月の県内売上高DI値は、前月より2.0ポイント上昇し、-3.8ポイントとなった。全国においては、前月より16.4ポイント下降し、-14.8ポイントとなった。

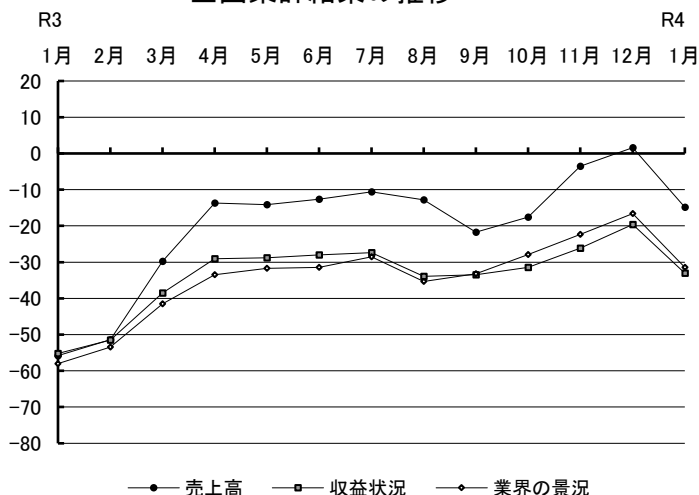
### 収益状況

当月の県内収益状況DI値は、前月と変わらず、-26.9ポイントとなった。全国においては、前月より13.4ポイント下降し、-33.0ポイントとなった。

### 業界の景況

当月の県内業界の景況DI値は、前月より23.1ポイント下降し、-38.5ポイントとなった。全国においては、前月より14.8ポイント下降し、-31.4ポイントとなった。

全国集計結果の推移



-概況-

1月の前年同月比DI値は、前月と比べ9指標中3指標が上昇した。主要3指標は「売上高」は2.0ポイント上昇、「収益状況」は前月と変わらず、「業界の景況」が23.1ポイント下降となった。

業種別・指標別にみると、製造業全体では「食料品製造」「窯業・土石」で「売上」が下降し厳しい。また、「木材・木製品」では引き続きウッドショックの影響で、各種資材等の仕入難と価格高騰が収まっておらず拍車がかかっている。「一般機器」では、未だ半導体不足、仕入資材の高値安定や一部調達が困難な状況も変わりはなく収益状況についても前月より悪化傾向にある。非製造業においては、やはり「小売業(飲食業含む)」で依然として厳しいマイナス状態となっている。

オミクロン株の感染拡大により県内で「まん延防止等重点措置」が適用されることとなり、一部業種を除き景況感が急速に悪化に転じた。各業界からは原材料の高騰・部品の調達不安等の声(特に木材・木製品業)や特に製造業で人手不足が深刻化し生産数が減少しているとの声も上がっている。感染急拡大の影響で先が見通せない状態が続いており、引き続き予断を許さない状況である。

図表1 【業種別・指標別DI値一覧表】

	売上	在庫	価格	条件	収益	資金	設備	雇用	景況
食料品製造	-50.0	50.0	0.0	-25.0	-75.0	-25.0	-25.0	0.0	-75.0
繊維・同製品	50.0	0.0	25.0	25.0	25.0	-25.0	0.0	-25.0	0.0
木材・木製品	50.0	-25.0	25.0	0.0	25.0	-25.0	25.0	-25.0	-50.0
印刷	0.0	0.0	-100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	-100.0	-100.0
窯業・土石	-50.0	25.0	25.0	0.0	-50.0	0.0	-25.0	0.0	-50.0
鉄鋼・金属	0.0	-25.0	25.0	0.0	-50.0	-25.0	-25.0	-25.0	-50.0
一般機器	25.0	-25.0	0.0	-50.0	-75.0	-25.0	0.0	-25.0	-50.0
製造業	4.0	0.0	12.0	-8.0	-32.0	-20.0	-8.0	-20.0	-48.0
卸売業	33.3	0.0	0.0	0.0	-33.3	0.0		0.0	0.0
小売業	-28.6	-28.6	28.6	-28.6	-57.1	-42.9		0.0	-57.1
サービス業	0.0		0.0	16.7	0.0	0.0		-16.7	-33.3
建設業	-20.0		0.0	0.0	0.0	0.0		0.0	0.0
運輸業	-25.0		0.0	0.0	-25.0	0.0		0.0	-50.0
その他	0.0		0.0	0.0	0.0	0.0		0.0	0.0
非製造業	-11.1	-20.0	7.4	-3.7	-22.2	-11.1	-3.7	-29.6	
全体	-3.8	-5.7	9.6	-5.8	-26.9	-15.4	-8.0	-11.5	-38.5

図表2 【指標別DI値の推移】

	3年 1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	4年 1月	前月比
売上高	-50.0	-40.4	-21.2	-3.8	5.8	-3.8	-7.7	-15.4	-25.0	-25.0	-17.3	-5.8	-3.8	2.0
在庫数量	-14.3	-8.6	-11.4	-20.0	-17.1	-14.3	-20.0	-17.1	-25.7	-8.6	-8.6	-20.0	-5.7	14.3
販売価格	-13.5	-9.6	-3.8	-3.8	3.8	-5.8	3.8	0.0	-3.8	3.8	5.8	11.5	9.6	-1.9
取引条件	-15.4	-17.3	-11.5	-9.6	-9.6	-15.4	-11.5	-13.5	-17.3	-11.5	-17.3	-9.6	-5.8	3.8
収益状況	-59.6	-46.2	-34.6	-19.2	-3.8	-23.1	-21.2	-32.7	-30.8	-34.6	-30.8	-26.9	-26.9	0.0
資金繰り	-26.9	-26.9	-19.2	-9.6	-13.5	-21.2	-15.4	-23.1	-23.1	-21.2	-15.4	-13.5	-15.4	-1.9
設備操業度	-36.0	-24.0	-20.0	-12.0	12.0	0.0	4.0	0.0	0.0	-8.0	-16.0	-4.0	-8.0	-4.0
雇用人員	-13.5	-11.5	-9.6	-11.5	-11.5	-11.5	-5.8	-7.7	-5.8	-15.4	-9.6	-7.7	-11.5	-3.8
業界の景況	-61.5	-50.0	-36.5	-28.8	-13.5	-28.8	-25.0	-32.7	-36.5	-30.8	-19.2	-15.4	-38.5	-23.1

## 特記事項

### 情報連絡員報告（令和4年1月分）

集計上の分類業種	具体的な業種 (産業分類細分類相当)	組合等及び組合員の業況等（景況の変化とその原因・現状等、企業経営・業界での問題点）
食料品	和洋菓子製造業	正月も多くの人出で賑わいのスタートを切ったが、オミクロン株感染拡大によりまん延防止適用を受け再び厳しい状況になってきた。
	あん類製造業	コロナによる輸入品の不足により、国内の原材料が高騰した。年度内は厳しい経営になる恐れがある。
繊維工業	縫製業	4月まで受注が満杯状態。ただ、技能実習生が毎月帰国しているため入国ストップのため、人数が減少して生産数が少なくなっている。
	網・レース・繊維粗製品製造業	1月までは、期待を込めて春物の受注状況は明るかったが、やはりコロナウイルスの感染拡大によるまん延防止措置の影響は業界内でも大きいと感じる。販売先・仕入先ともに動きが1月下旬から鈍く、原料の値上げの影響もあり、企画、量産の話が一時ストップしている所もある。助成金の継続や新たな給付金制度等が活用できるのはありがたいが、物価や経費の高騰についていくのが厳しい。
木材・木製品	家具・建具製造業	前月よりも好転した企業が増加しつつあるが、好転企業においては人手不足を訴えている企業もある。
	建具製造業	丸々2年に及ぶコロナ禍の中で起きたウッドショックは続いており、資材の入手難と高騰に拍車がかかっている。また、人手不足は深刻で、4月からは新卒者1名と中途採用者1名が加わるものの4～5名の人員不足である。
印刷	印刷業	需要が減る中で材料（インキ、版など）が値上がりしており、紙も値上がりする予定である。価格転嫁できる環境づくりが必要と考える。
一般機器	一般機械器具製造業	前年同月と比較し、売上が増加した企業と減少した企業がほぼ同数となり、企業間格差があった。仕入れ資材の状況は相変わらず高値安定が続き一部調達に困難な状況も引き続き見受けられる。操業度（稼働）はやや増加傾向となっているが、収益状況に関してやや悪化している企業が出てきている。新型コロナウイルス感染症による感染増加懸念もあり、不安はあるものの今後の動向に注視していく。
	一般機械器具製造業	新型コロナウイルスの感染急拡大に伴う小中学校の学級閉鎖等により、保護者にあたる従業員を自宅待機としているため、勤務シフトを組むのに苦慮している。
	一般機械器具製造業	製造業全般で半導体不足の影響が大きくなって全ての業種景況感が悪化している。建設業界・介護業界などは相変わらずの人手不足が続いている。しかし、コロナ収束が見込めなく入国緩和がいつ頃になるか手詰まり状態が続いている。
卸売業	各種商品卸売業	一部業種を除き全体として売上高、業況等は前年同期に比べ好転となっている。各社とも仕入単価の上昇を今後懸念している。
小売業	飲食料品小売業	石油価格とともに飼料がバイオ燃料となって、輸入価格が上がったため国内の牛豚が高騰した。また、オーストラリアの干ばつで、牛・羊の頭数減となり牛肉の仕入価格が30%アップしているが、売価へ反映できない。輸入豚・鶏肉の仕入価格も20%あがり、全ての原料が値上がりしている。原料高騰のところにオミクロン株感染者数増加により飲食店の営業時間規制があり、売り上げが振るわない状況である。
	各種商品小売業	1月期は厳しい月となった。飲食店はコロナの影響で多数の店舗は休業しており、人通りも少なく物販店だけが営業している状態である。

	各種商品小売業	前年同月は緊急事態宣言が出され、かつ帰省の自粛が呼びかけられた中での新年ということで、非常に低調な売上であった。その分今年には前年をクリアすることは容易であったものの、月末より再度まん延防止重点措置が出され客足が止まってしまった。
	花・植木小売業	葬儀などの業務需要で引き合いが強い輪菊、スプレー菊、ユリ等を中心に高値で推移した。1月のトータルを見ると入荷量は前年並み、寒さのため消費者の購買は鈍かったが主要品目で高値が続いたために、前年比で20~30%の単価高での市況推移となった。
サービス業	理容業	12月末には、コロナ禍も落ち着いて、集客も回復の兆しが見えていたが、1月に入り、日に日に感染者数が過去最大に膨れ上がり、大変厳しい状況である。
	旅館・ホテル	令和3年11月、12月と少しずつ戻ってきたところだが、オミクロン株の感染拡大を受けて客室稼働率がまた減少している。(宴会)新型コロナウイルス感染拡大により100%ダウン。(飲食店)オミクロン株感染拡大に伴うまん延防止措置期間により、50%ダウンしている。
	給食センター	売上高は、新型コロナウイルスの影響もあるが、新規事業である惣菜の製造販売により前年同月より増加傾向にある。下期になり、徹底したコストダウンの効果で収益は改善されてきたが、赤字幅が減少した程度で黒字化までにはいたっておらず、資金繰りは厳しい状況である。業界を見渡しても、埼玉県のある給食センターが3月末で解散するなど、どの組合も非常に厳しい状況であるといえる。
建設業	総合工事業	資材関係の納入において遅れている状況があり、コロナの影響を懸念している。
	職別工事業	売上高においては、対前年同月比約20%ほど減少。原油高騰やオミクロン株感染拡大が不安材料になっている。
運輸業	貨物軽自動車運送業	オミクロン株の流行に伴い、PCR検体配送の件数が飛躍的に増加し売上が一時的に伸びた。半導体不足が物全体を鈍くさせている。莓の配送など、季節の仕事は順調に維持出来ている。
	一般乗用旅客自動車運送業	コロナ感染者が著しく増加し、大変厳しい状況になっている。また、まん延防止措置が発令されたことにより昼夜を問わず人流が激減し、コロナワクチン3回目の接種で感染者が減少するか不安である。